



ニューヨーク補習授業校だより

平成 31 (2019) 年

2月9日発行

第35号

絆・きずな

夢のふくらむ学校

音読・漢字・視写・作文のすすめ

1月末日で、進級・進学希望者数が確定し、新学級編制作業に取りかかっているところです。進級・進学にあたって、一部の保護者の方から、お子さんの日本語の能力と授業のマッチングについての不安の声をお聞きする機会がありました。もとより、補習校は帰国後のソフトランディングを目指すために作られた学校です。しかしながら、日本で教育を受けて渡米してきた子ども、在米期間が長くなった子ども、或いは当地で生まれ育った子どもなど、多様な背景を持った子どもたちが混在し、さらに日本語の能力については少なからぬ差が存在していることも事実として認めざるを得ません。在米期間が長くなるにつれて、日本語よりも英語が口から出てくるようになることは仕方がないことかもしれません。さらに、学年が上がるにつれて現地校の課題やスポーツ活動なども忙しくなってきたり、体力的にも精神的にも補習校に対するモチベーションの維持が難しくなってきます。

補習校には、文部科学省の告示した学習指導要領を基にしたカリキュラムがあり、それに沿って教育指導を行うことで、日本国からの様々な支援（教科書の無償給付、借用校舎の賃貸料補助、教師人件費の補助、日本からの教員派遣等）が受けられることになっています。

この「補習校だより・絆」でも繰り返しお伝えしてきたように、言語の習得に近道はありません。週1回補習校に通ったからといって、日本語が習得できるようになるわけではありません。習得済みの日本語で日本の教科書を使って学習することが前提ですから、各ご家庭でそれぞれ事情もおありのこととは思いますが、日曜日から金曜日までの間、日本語の環境をある程度つくるのが肝要です。**家庭は第1の教室、補習校は第2の教室です。**

一般に、補習校に通う子どもたちに必要な日本語の学習のステップは「音読・漢字・視写・作文」と言われています。

ステップ1 絵本や教科書の文章を親が範読します。それに続いて子どもが音読します。日本語のイントネーションやリズム、発音などに慣れさせます。

ステップ2 漢字の書き取り練習を徹底させます。書き順も正しく指導します。

ステップ3 教科書などの文章を丸写ししてみます。(できれば、声に出しながら)

ステップ4 感想や思いを書きます。(鉛筆の持ち方も見てください)

このうち、ステップ2と3は適宜入れ替えても構いません。小学校1年生の教科書からやり直してみてください。時間はかかりますが、3か月は取り組んでみましょう。現地校の夏休みの間は、一時帰国して体験入学するか、日本人対象のキャンプなどで、日本語を磨いてください。少しずつ効果が出てきます。「わかる、できる」が肝です。

進級・進学後の新しい環境の中で、伸び伸びと学習に取り組む子どもたちの姿を期待します。

LI校～節分行事と園児作品



W校～鬼のお面(幼児部)と節分行事

